

1988年核データ国際会議準備小委員会

第2回会合議事録

日 時 昭和59年8月23日(水) 13:30~17:00
場 所 原研本部第6会議室
出席者 木村, 秋山, 川合, 五十嵐, 菊池
欠席 菅原

前回議事録を承認。

シグマ委員会運営委員会に前回会合の内容を紹介し、議論を行なったこと、その際に更に検討すべき2~3の事項があったこと、などが報告された。

検討すべき項目としては、主催機関の候補、会議のスコープ及び後援学協会の範囲、準備会の構成などである。

小委員会としては、主催機関は原研以外には考えられない。また、スコープとしては従来 of 会議を参考にするが、特に廃炉、downstreamingなどを強調するよう にすることで一致した。トピックスとしてあげる項目をAntwerp会議とSanta Fe 会議を参考に以下のように例示した。

1. 核分裂炉のための微分及び積分データ。
2. 核融合炉のための微分及び積分データ。
3. 測定施設、装置及び方法。
4. 核データの解析と評価。
5. 標準データ。
6. 核反応理論。
7. 核モデルによる計算と系統性。
8. 核構造及び崩壊データ。
9. 核燃料サイクル及び廃棄物処理のための核データ。
10. 中性子線量測定及び照射損傷に関する核データ。
11. 医学及び工業への応用のための核データ。

後援，共催の学協会，機関として考えられる所は，

動燃，原産，電事連，原子力5社，ソフトウェア6社，計測器会社，放医研，
原子力学会，物理学会，IUPAP，科技厅，INDC，NEANDC

などである。

準備委員には神田（幸），高橋（亮），岩本，白方の各氏を加える。

準備委員や後援・共催機関などの最終決定はシグマ運営委員会などの適当な機関で決めてもらう。

会議の名称及び議長は組織委員会で決める。

以上を運営委員会への答申とする。